

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第8号 水稻

発行日 平成27年10月29日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

◆今年のイネ作りを振り返り、生産コストの低減に向けて総合的に栽培管理や技術内容の見直しを行いましょ。

## 1 本年の生育経過と作柄

育苗期は、期間を通じて気温が高く経過し、温度管理に苦労されたことと思います。全般に病害発生も少なく、良苗が確保されました。

移植後も平年を上回る気象経過により水稻生育は良好で、出穂期は平年より早くなりました。

登熟初期の8月第3半旬以降は一転して少照で気温が低い気象経過となりました。

平成27年産水稻の9月15日現在における岩手県の作柄概況(農林水産省東北農政局,平成27年10月2日公表)は、作況指数104(ふるい目幅1.85mm)、10aあたり予想収量は554kg/10a、と見込まれ、干ばつや大雨など大きな気象変動の中、何とか良好な出来秋を迎えることができました。

平成27年産米の農産物検査結果(農林水産省,平成27年10月20日発表)ですが、9月30日現在の1等比率(岩手県)は、うるち玄米が96.4%、もち玄米が92.8%と全国トップレベルです。

2等以下に格付けされた主な理由は、①着色粒(カメムシ類)が最も多く、②形質(その他)、③胴割粒、の順となっています(総検査数量に対する割合は、着色粒(カメムシ類)2.4%、形質(その他)0.3%、胴割粒0.3%)。

## 2 来年の作付けに向けて

今年は、登熟期間中の不順天候により登熟が進まず、特に地域に適した品種作付けの必要性が再認識された年でした。また、米価は昨年よりやや回復したものの、依然としてコスト低減に向けた努力が求められています。来年の水稻作付けに向けて、地域にあった品種の選定(適地適作)、施肥設計・水管理・病害虫・雑草の適期防除、適期刈取等基本技術が励行できていたか、また、コスト低減に向けて無理やムダはなかったか等について見直しを行いましょ。

## 3 低コスト栽培技術

稲作コストの低減に向けては、生産費の中で最も比重の高い費目を減らすことが効果的です。しかし、「資材費」を減らすために、安易に必要な資材までも使用を控えると収量確保や良質米生産に悪影響を与えてしまい、結果としてコスト低減につながらない恐れがあります。したがって、以下のような観点から総合的なコスト低減に努めましょ。

- ①作付け面積の拡大(規模拡大) ⇒ 10aあたり生産費の低減
- ②生産量の増加(収量増加) ⇒ 60kgあたり生産費、生産物10,000円あたり生産費の低減
- ③販売単価の向上(有利販売) ⇒ 生産物10,000円あたり生産費の低減

また、コストとして意識しにくい「労働費」の低減に向けても、農地の集積や圃場の大区画化、省力的な栽培法や防除技術の選択などを併せて取組み、機械の利用率向上を図りましょ。